

令和8年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：24515

学校名：厚別通小学校

令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果		分析
体力・運動能力 ＜男子＞	シャトルラン（全身持久力）は全体的に伸びている。 握力・上体起こし（筋力・筋持久力）が学年によっては低下傾向。 50m 走・反復横とびのスピード・敏捷性は伸び悩み。	低学年で基礎的な筋力（握力・腹筋）が弱まる傾向があり、中高学年では敏捷性や柔軟性の維持が課題。一方で持久力は一貫して向上しており、授業や生活（休み時間）で「持久系運動」に取り組む成果が見られる。 →「休み時間運動活動」の成果が見えてきていると言える。 体育専科を中心に体育の授業改善を進めている。継続して楽しい体育学習を考えていく必要がある。中休みは全校児童が体を動かして遊ぶ取組を継続している。結果、休み時間や放課後にも進んで運動する子どもが増えている。
体力・運動能力 ＜女子＞	長座体前屈（柔軟性）・シャトルラン（全身持久力）の改善が目立つ。 ソフトボール投げ（瞬発力・巧緻性）の低下が複数学年で見られる。 反復横とび（敏捷性）は全般的に下降気味。	
運動・スポーツへの意識、運動習慣	運動が好きと答えた児童は、男子 76%、女子 80.8%と札幌市の平均と同等ないし高い傾向にある。運動が嫌いは、男子0%、女子3.8%。体育の授業が楽しくないと答えた児童は男女共にいない。 どんなときに体育の授業が楽しいと感じるかの質問に対し、「できなかったことが、できるようになったとき」との回答が多数を占めている。できるようになりたいという思いを大切に学習を進める必要がある。	

三つの取組	①体育・保健体育等の授業の充実	②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組	③子どもが自らの健康づくりを図る取組の充実
-------	-----------------	-----------------------	-----------------------

具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシート等を活用し、学習内容の振り返りや自己評価、他者評価を継続して行い、「前よりもできるようになった。」「もっとできるようになりたい。」「次はこうしたい。」など達成感や充実感を感じられるように体育授業の改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○三間（仲間、時間、空間）の創出により運動機会の充実を図る。 ～中休みは、友達と共に積極的に体を動かす遊びの実施、継続、工夫改善。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発達段階に応じて計画的に行う性指導や保健指導の取組を通して、命を大切にしようとする心や健康的な生活を送ろうとする心を育む。 ○日常の給食を「食指導」の時間と捉え、実践的・体験的な指導を継続して行う。 ○各学年の教科、領域と関連させながら栄養教諭を中心として食に関する指導を計画的に行い「食」と「健康」のつながりについてより実感を伴う理解につなげる。 ○望ましい生活習慣の定着のために、「アンケート」を基に一人一人の実態を把握し、個人懇談等を活用して家庭との共通理解を図る。
家庭・地域との連携・協働	<ul style="list-style-type: none"> ○保健体育の取組の様子、評価基準に基づく学習の状況や評価結果を活用していく。 ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査や学校独自の調査結果を活用。 ○児童アンケートや保護者アンケート、食生活アンケートの活用。 ○学校関係者評価委員会・学校関係者評価の活用。 		